



伸びゆく田原

最近見かけなくなった物の一つに、籐の乳母車があります。今はベビーカーが主流となったため、乳母車に赤ちゃんを乗せ、あやす姿はあまり見かけません。もちろん背中におんぶした姿も同様です。かつては、その役割をお母さん、お婆さんが担っていました。働く女性たちは、赤ちゃんをあやしめながら畑仕事などに精を出していました。

風通しの良い籐で編まれたボディ、そして赤ちゃんがつかまり立ちのできる程よい深さは、さながら「動くベビーベッド」です。時には、兄弟仲良く乳母車に乗せられている風景も見かけました。

赤ちゃんを乗せる役目を終えた乳母車は、お婆さんの足代わりの自家用車へと変わります。最近ではベビーカーに似たものが使われますが、乳母車の方が荷物をたくさん乗せることができます。ま



■二・七の市で見かけた乳母車のお婆さん

た、疲れた足を休ませようと体重をかけても倒れず、安定感があり実用的です。乳母車を押すお婆さんの姿から、昭和時代の「キオク」がよみがえります。

さて、48年前の昭和30年1月1日、田原町、神戸村、野田村の三町村が合併し、その後4月1日には杉山村の六連地域が合併して現在の田原町となり、「伸びゆく町」をスローガンに新しい町づくりに努力してきました。

その実績が評価され、昭和32年11月18日に自治庁長官から表彰を受け、昭和34年1月には、全国町村会から県内で唯一の表彰を受けました。その記念として贈られた花瓶が今も役場の会議室に飾られています。「優良町村

表彰」と彫られた金属製の花瓶です。

「優良」という言葉は時代を感じさせますが、当時としては最高の賞賛を表したものです。

それを証明するように、田原町は工業・農業をはじめとする産業の発展、文化・福祉施設の充実、生活基盤の整備などを推進

してきました。では、これら町の発展の原動力は



■「優良町村」の表彰記念の花瓶

▼田原町博物館 ☎22局1720

一体何だったのでしょうか。合併を記念して作られた「伸びゆく田原」という町の歌があります。歌詞の一番では、地域の文化を誇りに、二番では産業の発展に将来の望みを、そして三番では地域のつながりに幸せを託しています。

三番の歌詞に託された「地域のつながり」は人々の「こころの安心感」です。この「地域のつながり」こそ、町の発展の原動力ではなかったでしょうか。そして「こころの安心感」の象徴的な風景が、乳母車とお婆さんのような気がしてなりません。この風景からは、町を培った人々の温もりが伝わってきます。

田原町は8月20日をもって赤羽根町と合併します。さらに「伸びゆく」ため、全国の模範となった昭和30年の合併に負けぬよう、すばらしい「市」づくりを進めていこうではありませんか。(増山)